

令和4年度 法科大学院入学者選抜試験問題

民 法

1. 試験開始の合図があるまで、この問題用紙の中を見てはいけません。
2. 試験時間は90分です。
3. 試験中に問題用紙の印刷不鮮明や解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 解答にあたっては、必ず黒か青のペンまたはボールペン(鉛筆は不可)を使用してください。
5. 解答用紙に記入するときには、下記の点に注意してください。
 - (1) 受験番号・氏名を所定欄に記入してください。
 - (2) 解答用紙は、3枚あります。すべての解答用紙に受験番号・氏名を記入し、ホチキスは、はずさないで使用してください。
 - (3) 訂正する場合は、＝線で消すなどして、分かりやすく訂正してください。
 - (4) 解答用紙は、折り曲げたり汚したりしないでください。
6. 問題用紙の余白等は適宜利用してかまいません。
7. 試験終了後、問題用紙は持ち帰ってください。

【民 法】

解答はすべて解答用紙の所定欄に記入しなさい。

第1問

次の各小問の文章は、大審院又は最高裁判所の判決の概要の一部である。各小問の（ ）に入る言葉を答えなさい。(配点：各4点×10問)

- (1) 民法742条1号にいう「当事者間に婚姻をする意思がないとき」とは、当事者間に真に社会観念上（ ）であると認められる関係の設定を欲する効果意思を有しない場合を指すものと解すべきである。
- (2) 所有権の侵害があっても、その損失の程度がいうに足りないほど軽微であり、これを除去するのに膨大な費用を要する場合には、第三者が不当な利益を得ることを目的として、所有権を得る必要がないのに所有権が侵害された物件を取得し、所有者として妨害の除去を求めることは、社会観念上所有権の目的に反するものであり、その機能として許される範囲を逸脱するものであり、（ ）となり、その請求は認められない。
- (3)（ ）といえるためには、団体としての組織を備え、多数決が行われ、構成員の変更にかかわらず団体そのものが存続し、その組織によって代表の方法、総会の運営、財産の管理その他団体として主要な点が確定しているものでなければならない。
- (4) 民法145条所定の当事者として消滅時効を援用し得る者は、権利の消滅により（ ）を受ける者に限定される。
- (5) 無権利者から動産の譲渡を受けた場合において、譲受人が民法192条によりその所有権を取得するためには、一般外観上従来の占有状態に変更を生じることが必要であり、（ ）の方法による取得では足りない。
- (6) 建物の建築工事の請負人が建築途上において未だ独立した不動産に至らぬ建前をそのままで放置し、その後第三者がこれに材料を提供して建物に仕上げた場合には、（ ）の規定によって所有権の帰属を決定すべきである。
- (7) 債権が質権の目的とされる場合、質権設定者は質権者との間で（ ）を維持すべき負う。
- (8) 特定物の売買における売主のための保証においては、売主の（ ）に基因して売主が買主に対して負担する債務につき責めに任ずるといふ趣旨である。
- (9) 土地賃借人が建物所有目的で賃借し建築した借地上の建物を第三者に賃借している場合に、更新拒絶が認められるか否かの判断では第三者の建物利用の必要性は、借地借家法所定の（ ）の判断において考慮されない。
- (10) 722条2項の過失相殺の問題は、不法行為者が責任を負うべき額を定めるにつき、（ ）の見地から損害賠償の額を定めるにつき被害者の不注意をいかに斟酌するかの問題に過ぎない。

第2問

次の各小問に答えなさい（それぞれ解答用紙の15行以内で記入すること。各20点）。

(1) 債権者代位権の制度の趣旨と概要について説明しなさい。

(2) 遺言書において特定の遺産を特定の相続人に「相続させる」趣旨の遺言書の意味を説明しなさい。

第3問

AとBとの間には子である未成年者Cがいる。Aが死亡したことでCはAが所有する不動産を相続で取得した。

Bは、自らの負債を返済するために、Bが管理するC名義の不動産をCの親権者としてDに売却した。

その後、CはEと結婚した。

以上を前提として次の各設問に解答せよ。

(1) BがC名義の不動産をDに売却した行為の効力について説明せよ（10点）。

(2) Cが死亡した場合、DとB、DとEの関係はどのようなようになるかについて生じ得る問題点について、必要なら場合分けをして検討せよ（30点）。

以 上